

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間 **最終**)

音戸中学校区 校番 27 学校名 音戸小学校

a 学校教育目標	〈小中一貫教育目標〉 ふるさとを愛し、自律できる 児童生徒の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 知・徳・体の基礎的な力を身に付け、学校や地域に誇りと愛情をもち、感謝・貢献する児童を育成する。
	夢をもち 自ら動き たくましく 生活する 児童の育成		〈ビジョン〉(将来の学校像) 挨拶と笑顔があふれ、安全・安心な学校 児童が自信を持ち、目標に向けて挑戦する学校 地域・家庭とつながり、信頼される学校

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	本校では、中学校区で設定した資質・能力の育成を目指し、確かな学力では、ペア学習やICTの効果的な活用を図った授業づくり、計画的組織的な個別指導の取組、特別支援教育の視点を取り入れた学習環境づくりを推進することで、児童の主体的に学ぶ力、知識・技能及び表現力の向上が見られた。また、豊かな心では、あいさつの徹底、親切さんありがとうBOX、縦割り班活動や地域学習の充実を図ることで、児童の自己肯定感や地域への愛着心の向上が見られた。健やかな心身では、生活習慣改善カードの着実な取組、くれ・チャレンジマッチ・スタジアムへの組織的な参加、地域や家庭を巻き込む防災教育を推進することができ、一定の成果を挙げた。業務改善も教職員の意見を取り入れ、効果を上げた。以上を踏まえ、今年度も、昨年度より深化した取組を、全教職員で組織的に計画的に着実に実践し、確かな学力、豊かな心、健やかな心身、業務改善、安心安全な学校風土の醸成を図り、児童、教職員、保護者、地域が一体となって高まっていくことのできる教育実践を研究していく。
------------------------------	---

育成すべき資質・能力	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働的に関わる力」「地域の一員として関わる力」
------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・ 3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	10月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
** *	(知) 「前より賢くなった!友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成	①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを推進する。	○考える授業づくりの推進	○学期ごとの評価テスト(国・算)の平均が40%以下の児童の割合	0	3	97	B	3	97	B
確かな学力		②表現力を育成する。	○課題発見・解決学習の授業研究の実施 ○ノートづくり・スピーチの取組	○課題発見・解決学習に関わる児童アンケート ○ノートづくり・スピーチに関する児童アンケート	85 80	96 87	112 108	A A	95 90	112 113	A A
		③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。	○個に応じた課題別学習(キュビナの効果的な活用等)、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり、組織的・計画的の実施	○個に応じた課題提示や選択に関する意識調査(教職員・児童)	85	92	108	A	94	111	A
**	(徳) 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成	④自他のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。	○挨拶の徹底(児童を主体とした「あいさつ名人」等の取組の実施) ○「親切さんありがとうBOX」の活用	○挨拶意識調査(児童・保護者・教職員) ○「親切さん」を自主的に推薦した児童の割合	80 70	88 60	110 86	A B	94 77	117 110	A A
豊かな心		⑤いじめや暴力等を許さない学校環境づくりを推進する。	○いじめ撲滅キャンペーン中に、各委員会が主体的に考えた取組を確実に実行し、振り返りをする。	○「いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。」アンケート(児童)	100	100	100	A	100	100	A
		⑥地域の人・もの・ことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。	○生活科の学習や総合的な学習の時間の中で、実際に地域に関わる授業を学期に2回以上行い、まとめ、発信する。	○地域に関するアンケート(児童・教職員)	80	83	103	A	94	117	A
*	(体) 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成	⑦基本的な生活習慣の確立を図る。	○「げんきっすカード」による取組で、家庭でのメディアのルールを決め、児童・保護者の意識を高める。ルールを決める、守ることができない児童の支援を行う。	○メディアに関するアンケート「家庭でメディアのルールを決めている。」(児童・保護者)	80	96	120	A	88	110	A
健やかな心身		⑧児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。	○くれ・チャレンジマッチ・スタジアムで3種目以上に取り組み、入賞を目指すことを通して児童の体力向上を図る。	○学期に1回チャレンジ週間を決め、記録を更新する。	85	83	98	B	100	125	A
		⑨児童の防災意識を高める。	○「自分の命は自分で守る」防災授業(実践に結びつく授業を学期に1回) ○授業中以外で避難訓練を行い、防災意識や実践力を高める。	○学期に1回以上実践に結びつく授業を行い、防災安全ファイルに保存していく。 ○授業中以外で避難訓練を行う。防災に関するアンケート「自分が住む地域に起こりやすい災害について知っている。」「災害時に避難する場所や避難の仕方について知っている。」(児童)	80 100	100 95	125 95	A B	100 97	125 97	A B
業務改善	教職員が自らの意欲と能力を発揮し、健康でやりがいを持って働けることができる教育環境の整備	⑩児童と向き合う時間の確保	○行事の精選と簡略化、業務の見直し、会議時間の短縮を継続し、教職員が教材研究等に取り組む時間を確保する。	○児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合	80	92	115	A	85	106	A
⑪長時間労働の縮減		○成績処理期間の放課後時間の確保 ○週1回(水)の定時退校の徹底	○時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合	85	61	72	C	54	64	C	

[k:評価]
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
C:60≦(もう少し)<80 D::(できていない)<60

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間・最終)

音戸中学校区 校番27

学校名 音戸小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** 確かな学力	<p>費</p> <p>(知) 「前より賢くなった! 友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成</p>	<p>①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを進める。</p> <p>②表現力を育成する。</p> <p>③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る。</p>	<p>①1学期より40%未満の児童が2パーセント減少し、80%以上が7%上昇した。40%以下の児童の割合は、国語、算数共に3%である。授業づくりに関して情報収集に関しての肯定的回答は95%、話し合いに関しての肯定的回答は95%だった。特に総合的な学習の時間では、地域の店舗や企業に見学に行ったり、それを基にまとめや発信をしたりすることができた。</p> <p>②ノートの工夫に関しては91%の児童が肯定的回答をした。スピーチに関して言葉が増えたと感じる児童が89%、自信がもてるようになったと感じる児童が92%だった。ノート大賞を全学年で決める取組を行ったことで、学びの足跡に記録する方法の共通認識が児童・教員共にできた。</p> <p>③自分にあった課題を選んで学習を進めたという児童が95%、課題を提示できたと考えた児童が87%だった。タブレットドリルの単元学習の達成率を100%にすることを目標に、日々の授業の時間や家庭学習で取り組むことができた。給食時間や放課後の個別指導も継続したが、指導の時間が足りなかった。</p>	<p>①ドリルタイムの方法を見直すことで、各学年で習得する計算の力の定着を図ることができた。漢字についても同様に取り組む。</p> <p>②ノート作りでは「学び方5」を示し、大事なポイントに線を引いたり、間違った問題は吹き出しを書いて考え方を書いたりする方法に取り組んでいるが、まだ学年によって定着に差がある。授業の中で考えをノートに記録する方法を児童と確認していくことで、自主学习にもつなげていく。</p> <p>③放課後の個別指導の時間を充実させるために、曜日や時間を変更する。</p>
** 豊かな心	<p>(徳) 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成</p>	<p>④自他のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。</p> <p>⑤いじめや暴力等を許さない学校環境づくりを推進する。</p> <p>⑥地域の人・ものことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。</p>	<p>④挨拶ができていると自己評価している児童、教職員、保護者の平均の割合が94%だった。「挨拶名人になろう」という取組を全校で行った結果、頑張る児童が増えた。継続して自分から挨拶ができる児童を増やすための取組を工夫していく必要がある。「親切さんありがとうBOX」を活用し、親切な行動を主体的に紙に書いて推薦することができた児童の割合は77%だった。「見つけ名人」を表彰する取組によって、書こうとする児童が増えた。</p> <p>⑤「いじめは許されないことである」と考える児童は、100%だった。1学期に続いて、いじめ撲滅キャンペーンで各委員会による充実した取組が行われたことで、いじめについて児童が考える機会を多くもつことができた。一方で、各委員会のいじめ撲滅に向けた取組にかけられる時間が多くなってしまった。</p> <p>⑥実際に地域と関わる授業の実施状況や、児童の地域への意識調査の結果の平均は94%だった。1学期より総合的な学習の時間や生活科の学習を通して、地域の人やものに関わる機会を増やすことができた。</p>	<p>④児童が主体的になる取組を行っていく。挨拶を自分から進んで元気よく行う児童を積極的に見つけ、認めていくことをより増やしていく。継続して挨拶をしている児童が認められたと実感できるようにしていきたい。「親切さんありがとうBOX」の活用では、学期の終わりに、見つけた人の表彰を行う。「自分も探してみよう」という意識が児童の中で広がっていくように、取組を継続する。</p> <p>⑤次年度は、委員会のいじめ撲滅に向けた取組を充実させるために、各委員会が前期と後期のいじめ撲滅キャンペーンのどちらかで活動を行う。</p> <p>⑥地域に関する学習を通して、音戸町についてより児童が詳しくなり、地域のことをより好きになってもらえるように、次年度の学習内容について協議し、改善につなげる。</p>
* 健やかな心身	<p>(体) 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成</p>	<p>⑦基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>⑧児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。</p> <p>⑨児童の防災意識を高める。</p>	<p>⑦メディアのまきりを家族と話し合っている児童89%保護者88%の達成値だった。1学期よりも10%近く下がった。各家庭でメディアルールを確認したり見直したりする必要がある。</p> <p>⑧くれチャレンジマッチキャンペーン週間を9月に行い、全学年が取り組むことができた。</p> <p>⑨「自分の命は自分で守る」防災授業はすべて計画通り行い、防災安全ファイルに保存できている。地域に起こりやすい災害や避難場所、避難方法について答えられなかった児童には再度指導を行った。合同避難訓練や予告なしの避難訓練を休憩中に行い、避難訓練の反省や課題をロイロノートの「ヒヤリハット」フォルダに保存し共有することで、防災意識を高め、次年度の計画につなげることができた。</p>	<p>⑦健康課題がある児童には、生活改善できるよう支援し、引き続き取り組む。</p> <p>⑧2学期は早めにキャンペーン週間を設けた。3学期はキャンペーン月間として「跳ぶ」「投げる」「走る」種目に挑戦し、体力向上を目指す。</p> <p>⑨3学期も予告なしの避難訓練を実施し、いざという時、自分の命は自分で守ることができるよう、児童の防災意識、教職員の危機管理意識を高めたい。</p>
業務改善	<p>教職員が自らの意欲と能力を発揮し、健康でやりがいを持って働くことができる教育環境の整備</p>	<p>⑩児童と向き合う時間の確保</p> <p>⑪長時間労働の縮減</p>	<p>⑩85%の教職員が肯定的な回答をし、目標値は達成できたが、中間より9ポイント下回った。成績処理期間に授業時数をカットしたことやバス下校の当番を管理職が多く行い、回数を減らしたこと等が校務や学級事務の時間確保に効果があったと職員から意見があった。一方で、行事や総合的な学習の時間の取組が増えたり重なりすぎたことで、授業時数を確保することが難しかったという意見もあった。</p> <p>⑪時間外勤務が月45時間以下の教職員の達成値が64%であり、中間よりも8ポイント下回った。但し、夏季休業期間を除いたもので比較すると、16ポイント上回っている。タイムマネジメント等、教職員の働き方の現状や意識改革について共有を図ったことで改善傾向にある。</p>	<p>⑩児童と向き合う時間を確保するために、来年度の行事や教育活動の見直しを図るとともに、学校運営協議会と連携を図りながら、地域人材を活用する等、教育活動を充実させていく。また、児童について教職員で情報を共有し、一人一人の状況に応じた、きめ細やかな支援や対応を行う体制を整える。</p> <p>⑪働き方改革や業務改善に関する他校の取組を参考にするとともに、教職員の意見に耳を傾けながら、一人一人が健康で生き生きとやりがいをもって働くことができる職場環境づくりに努める。</p>

令和7年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 **最終**)

音戸中学校区 校番 27 学校名 呉市立音戸小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・④「他者のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。」及び⑧「児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。」の数値がAになり、よいと思う。 ・達成度が100%を大きく超えた目標に関しては、目標値を上げる必要がある。 ・⑩「児童と向き合う時間の確保」は、PTAやCSとしては目標値を100%にし、共に取組んでいきたい。 ・過去からの実績で数値設定をしていると思うが、初めての取組の設定理由をもう少し分かりやすくしてほしい。
目標達成のための方策の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の皆様の学校への感謝の言葉から適切だと考える。 ・具体的方策で、取り組みやすいと考える。 ・業務改善の目標設定について、学校全体、分掌、学年、個人等、段階的な目標管理方法も適宜使い分けをしてはどうか。 ・学校教育からの方策と思われるので、よい活動だと思う。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの取組において、「できたこと」「時間が足りなかったこと」等の気付きがあり、次に繋がる分析をされている。 ・アンケート結果だけで判断せず、一人一人との対話があると効果があると思う。 ・数値の比較から見えるものに期待する。
今後の改善策(案)の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行動に繋がる改善策を考えているため、分かりやすい。 ・防災意識の向上を目指して、予告なし避難訓練の実施に期待する。音戸小の立地から、高潮対策も意識してほしい。 ・業務改善について、PTA、CSでできることをさせていただきたい。業務量を減らす視点で、お願いしたいことを教えてほしい。 ・業務改善については、管理職と教職員に温度差がないよう、意見に耳を傾けることも必要である。
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・児童に真摯に向き合っている様子が強く伝わってくる。音戸小学校の子供たちは、伸びやかにすすくと育ってくれていると感じ、嬉しい。 ・いじめ撲滅プロジェクト会議での6年生3名の代表児童の返事や姿勢がとてもよかった。いじめ対策は、ここからだ確信した。 ・学校教育目標を共有し、共に取組んでいくためにも、CSとしてできることを精一杯やらせていただきたい。遠慮なく相談してほしい。 ・先生方には、これからも体に気をつけて頑張ってほしい。 ・管理職は大変であるが、教職員が管理職になりたいと思う学校経営をしてほしい。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ○学力補充に今後も児童の実態を共有しながら組織で計画的に取り組むことで、計算や漢字を中心とした基礎学力の定着を図る。自分の考えをノートに記録する方法を児童に指導し、自主学習にも繋げていながら、児童の思考力を育んでいく。また、児童が主体的に課題解決に取り組む授業改善にも全職員で取り組む。 ○感謝の気持ちを伝えることの大切さを実感させるとともに、地域の人と関わるよさに気付かせ、自分から進んで挨拶できる児童を育成する。いじめ撲滅キャンペーン等、児童が主体となっていじめをなくす取組を委員会で充実させる。いじめ事案については、今後も教職員で情報を共有し、体制を組んで対応していくとともに、迅速に他の関係機関と連携する。 ○健康課題がある児童には、生活改善ができるように支援していく。くれ・チャレンジマッチ・スタジアムに積極的に取り組むとともに、外遊びを奨励する取組や体育科の授業等で体を動かす楽しさを経験させることで体力の向上を目指す。地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育を行い、自分の命は自分で守る力を児童に育成する。 ○働き方改革や業務改善に関する取組を参考にするとともに、教職員の意見に耳を傾けながら、一人一人が心身ともに充実し、「働きやすさ」と「働きがい」のある職場環境づくりに努める。
--------------------	---